

学習開始時までの学習動機に関する一考察

— 中国における日本語双学位学習者を対象に —

王 俊

要 旨

本研究では中国における日本語双学位学習者69名を対象に、双学位学習開始時までの学習動機を中心とした横断的・質的分析を試みた。その結果、学習者の中には日本語双学位を決める際、複合的学習動機を持っている者が少なくない（30名）ことが判明した。また、学習者の日本語学習動機には長期間にわたって影響を与える長期的学習動機と、大学入学後からの比較的短い期間で形成される短期的学習動機があることが明らかになった。これは日本語学習者の学習動機の構成内容が複雑であることや動機が長い時間をかけて醸成されうること示唆している。

【キーワード：中国人大学生／日本語双学位／学習動機／質的分析】

1 はじめに

2012年、中国では日本語学習者が100万人を突破し、世界第1位になった。その中でも日本語を専攻としない学習者は36万人に達し、日本語を主専攻とする学習者の24万人を超えて、中国高等教育機関における日本語学習者数の半分以上を占めるようになった(国際交流基金2013)。本研究では、日本語を専攻としない日本語学習者を非専攻日本語学習者と便宜上呼ぶこととする。

学習動機は学習者要因の中で最も重要な要素の1つである。日本語教育における学習動機の研究対象は様々であり、また、世界各地で調査がなされてきた(縫部他1995、成田1998など)。しかし、それらは学習動機の類型化を目的としており、量的調査が多く(Dörnyei 2001)、大まかな傾向しか把握することができない。そこで本稿は質的研究法を用いて、中国の大学においてダブルディグリープログラムを利用して日本語を専攻としない日本語学習者を対象に、日本語の学習動機の内容とその形成時期を明らかにすることを目的とする。

2 先行研究

2.1 学習動機

学習動機の定義については、その構成概念の複雑さのため、一致した見解が得られていなかった(守谷2002)。Dörnyei (2001)は学習動機を「なぜそれを行うのか」、「どの程度その活動を維持しようとするのか」、「いかにそれを達成しようとするのか」を説明するものとしている。本研究では学習動機という用語を、研究目的に即して、「なぜ日本語学習を行うのか」という問いに対し説明するものとして用いる。

大西(2013)はこれまで行われてきた日本語教育における学習動機についての研究をまとめた。その結果、56点の研究のうち質的研究は16点にすぎず、学習動機についての研究は量的研究が中心

であったことが分かった。しかし、学習動機は学習者一人一人に関わるものであるため、個々の学習者に焦点を当てる質的研究も必要である。また、これらの研究は中国とは異なる社会的・文化的環境において実施されたものが大多数であり、研究結果が中国人学習者に当てはまるとは限らない。学習動機は社会的・文化的背景に依存しているため、背景となる社会や文化が異なれば、学習者の学習動機も異なる可能性がある。

さらに、根本（2011）では学習動機はプロセスを持つものとし、学習開始前から捉える必要があると指摘し、学習開始前に遡って調査することが重要だという認識が示されている。本研究でもその認識を踏襲して議論を進めていく。

2.2 中国における非専攻日本語に関する研究

中国の高等教育機関における非専攻日本語学習は一般的に英語の代わりに第一外国語として履修する場合と、選択科目の中から第二外国語として履修する場合がある。国際交流基金（2013）によれば、現在英語学科の履修者を中心に、第二外国語として数ある外国語の中から日本語を選択する者が最多となっている。中国の学術エンジンCNKIを検索してみると、表示される論文のほとんどが英語学科の日本語履修者を対象に如何に効率よく知識を伝授できるかについての論説文である。中国の非専攻日本語の概況を扱う論文には成（2006）、案野・谷部（2010）があるが、非専攻日本語学習者の学習動機をテーマにした論文は現在のところ量的手法による彭・王（2003）と王（2005）しか見られない。

3 調査概要

3.1 調査対象

本研究では「七校聯合」に参加している中国の華中科技大学（以下H大学と略す）の2012年度のクラスを研究対象とする。2001年より中国武漢市において、H大学をはじめとする7つの大学が相互に提携をしてマイナー・ダブルディグリープログラム、通称「七校聯合」¹を開始した。このプログラムは武漢市の大学だけではなく、その他の一部大学²にも存在するプログラムで、それらの大学に所属する学士課程の学生は、主専攻とは異なる専攻で授業を履修し、2年間で規定の単位を取得した場合に、別の学位記を取得できる制度である。「七校聯合」に参加している大学学部2、3年生向けに相互科目履修の機会が提供され、履修するにあたり学費を支払う必要がある。授業は休日や夏休みに行われる。2年生の後半から1年間学習し、規定の単位を取得した場合はマイナー、2年間学習し、規定の単位を取得した場合は、ダブルディグリーが学習者に与えられる。ダブルディグリーは中国では通称「双学位」といい、本研究でも「双学位」という単語を用いることにする。2008年時点で「七校聯合」は中国大陸における双学位プログラムの中で実施年数が最も長く、実質的な参加大学数・学習者数が最も多いと言われている（許 2008）。

H大学のクラスを対象として選んだ理由は、2012年にH大学で日本語双学位を利用した学習者数が「七校聯合」参加大学の中で最も多く、多様なデータを得ることができ、幅広い分析ができるか

らである。H大学における日本語双学位の担当教師は日本語専攻の教師で、開講科目も日本語専攻に準じている。総授業数は45分×800コマであり、4つの学期に分けられる。1学期目から3学期目まではH大学にて授業を受け、残りの1学期は各自指導教官と面会などの時間を取り、卒業論文に取り組む。1クラスあたりの人数には幅があり、およそ30人から60人程度である。毎年第1学年が終了するまでに履修放棄する者が出るため、人数調整のためにクラス再編が行われる。

2012年にH大学の日本語双学位課程において履修を開始した学習者は4つのクラスに分けられ、管理の都合上、同じ大学の学習者は同じクラスに割り当てられるよう配慮されていた。筆者は当時H大学大学院の学生であり、時間・場所ともに調査しやすい地域であったため、H大学の学生が大部分を占めているクラスAを研究対象の1つとした。一方、同じ大学における学習者だけではデータに偏りが生じる恐れがあるため、3つの大学の学習者により構成され、学習者がバラエティーに富むクラスBも対象とした。クラスA、クラスBの対象者数はそれぞれ30名、39名である。

3.2 調査目的

2.2節で述べたとおり、第一・第二外国語としての日本語学習を扱った研究はあるが、双学位制度における日本語学習についての先行研究はほとんどなく、それに言及されることも稀である。本研究では、中国人日本語双学位学習者の学習開始時の学習動機の内容とその形成時期の分析を目的とする。

3.3 調査方法

第1学期の始業前、研究対象の2クラスにおいて調査の趣旨を説明し、同意書を渡して、署名を求めた。協力することを承諾した69名の対象者に記述式質問紙調査を実施した。記述式質問紙の質問項目(稿末資料を参照)は「どうして日本語双学位を選んだか」、「日本語／日本に関する知識」、「両親、友達、先生といった周りの人々は日本語双学位にどのような態度を取っているか」という3項目からなる。第1の質問項目は日本語の学習動機を直接引き出す質問である。第2の「日本語／日本に関する知識」に関する質問では間接的に日本語の学習動機を窺うことができる。また、この質問を通して日本語学習未経験の者と経験がある者、そしてその学習内容を知ることができる。第3の質問では調査期間中の日中関係の変化を考慮し設定した。具体的には、調査期間中、中国の一般人の間で反日ムードが盛り上がり、日本に対する嫌悪感が高まった時期があり、学習者の友人や先生、特に双学位課程の学費を負担することになる家族からネガティブな意見が出ていることが予想され、周囲の意見が学習者の学習動機に影響を与える可能性があったためである。

記述式質問紙に慣れていない対象者もいる可能性を考慮し、対象者からより豊富なデータを引出せるように面接を実施した。記述式質問紙調査の回答に基づき、質問紙調査では不明であった点について、69名の対象者に半構造化面接を行い、許可を得た上でICレコーダーに録音した。対象者の時間的負担を減らすため、クラスB(他大学の対象者)の面接は土日の授業前あるいは昼休みに、クラスAの対象者には平日の都合の良い時間帯を確認したあと、15分を目安に実施した。イン

インタビューは対象者の移動時間を考慮し、対象者が通う教室に近い休憩室で行った。対象者には採取されたデータはプライバシーに留意し厳重に保管する旨を伝えた。学習者のプライバシーを保護するため、調査に参加している学習者は本人の同意を得て「S + 数字」で表記する。

分析では記述式質問紙のデータと半構造化面接のデータの両方を併用して行う。手順は以下のとおりである。

- ①録音した内容に基づき逐語録を作成。
- ②作成した逐語録及び記述式質問紙調査の回答に記載されている日本語双学位の選択理由から、重要語句（表1の波線部）を抽出しコード化。
- ③類似するコードをサブカテゴリー（以下〈 〉で示す）としてまとめ、さらに、サブカテゴリー間の類似性によって集約化しカテゴリー（以下【 】で示す）を生成。下記の表1では、その一部を取り出して分析プロセスを示す。

表1 分析のプロセス

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	例（一部）
興味	日本語や文化への興味	ゲームに夢中	両親が <u>ゲームに夢中</u> であったところをずっと見て育ってきたので、 <u>自分もやりはじめた</u> 。高校の時、多くのゲームは日本のもので、 <u>中国語に翻訳されていなかった</u> 。「 <u>日本語ができたらいいな</u> 」と思った。(S1)
		日本文化に興味、他のことを学ぶ、アニメや映画などに興味	日本文化に <u>興味がある</u> 、特に企業文化だ。企業の運営形式などは私たちのモデルとするべきだ。これが日本語を履修する大きな原動力だ。言語は意思伝達の道具で、言語を学ぶことで、 <u>その言語を媒介として他のいろんなことを学ぶことができる</u> 。この他にも、 <u>アニメや映画などに興味を持っている</u> (S2)

4 結果

双学位学習者の学習開始時の学習動機について、【就職】、【興味】、【興味+就職】、【充実+興味】、【興味+習得容易】、【主専攻の補助】、【競争+興味、就職】、【大学院受験】、【周囲からの影響】、【実用+習得容易】、【好奇心+習得容易】、【外国語+習得容易】、【留学】、【留学+興味】の14のカテゴリーと、19のサブカテゴリーに分類することができた。結果を表2に示す。括弧内の数字は各カテゴリーに該当する学習者数である。

表2 学習者の学習動機についての分類

カテゴリー	サブカテゴリー (人数)	カテゴリー	サブカテゴリー (人数)
①就職	将来の職業として (1)	⑧大学院受験	英語以外の外国語で大学院試験を受けた い (2)
	将来の就職に有利 (5)		
②興味	日本語・日本文化に関心 (14)	⑨周囲からの 影響	無意識に周囲に影響される (5)
			友人や家族の勧誘 (1, 1)
③興味+就職	日本文化に興味、就職に有利 (10)	⑩実用+習得 容易	実用的なものを勉強したい、習得しやす そう (1)
	言語そのものに興味、就職に有利 (6)		⑪好奇心+習 得容易
④充実+興味	休日を充実させる、アニメへの興味 (3)	⑫外国語+習 得容易	英語以外の外国語を勉強したい、習得し やすそう (4)
⑤興味+習得 容易	映画などに興味、習得しやすそう (1)	⑬留学	日本製造業への憧れ (1)
⑥主専攻の補 助	主専攻の学習と繋がり、助けになる (4)		専攻のレベルが高い日本に留学したい (3)
		⑭留学+興味	専攻のレベルが高い国に留学、アニメな どに興味 (3)
⑦競争+興味 就職	競争意識から始まり次第に興味、就 職へと変化 (1)		

以下では、各カテゴリーとサブカテゴリーについて例を挙げて逐次説明していく。一つのカテゴリーに複数の学習者がいる場合、学習者から得られた回答を2つ例として挙げる。

①就職 (6名)

【就職】には〈将来の職業として〉と〈将来の就職に有利〉という二つのサブカテゴリーが含まれている。〈将来の職業として〉というのは、将来の仕事で日本語を生かしたいという動機であり、〈将来の就職に有利〉は主専攻の他に、「小語種」(中国における英語と比べて学習者数の少ない言語の呼称)としての日本語をマスターすることで、将来就職活動をする際の強力なアドバンテージとしたいという動機である。前者(該当者は1名)は主専攻よりも日本語の方に興味を持っており、また、将来は日本語通訳者になるという目標があり、そのために双学位学習を通して目標に一步でも近づきたいと考えていた。後者では、具体的にどのように役に立つかについて、学習者自身もよく把握していないが、役に立つ日が来るだろうというほんやりとした考えを持っていた者がほとんどである。これは中国では日系企業が多いため、日系企業との将来的な接触の可能性を漠然と想定してのことだと思われる。

- 今は自分の専攻である設計より日本語が好きだから。大学入学前、日本のアニメを大量に鑑賞していた。自分は元々言語が好きなので、将来は日本語通訳を職業としたい。(S3)
- 日本語を選んだ主な理由は就職に有利だと思ったから。一スキルとして、役に立つ日が将来絶対来ると思う。(私の)故郷には日系企業が多い。(S4)

②興味 (14名)

【興味】は〈日本語・日本文化に関心〉を持っていることから生じる動機である。具体的には、日本語のアニメ・ドラマ・ゲーム・J-POPに興味があるので、字幕なしでそれらを理解したい(通常中国で閲覧できる日本の動画コンテンツには中国語字幕が付いている)という欲求や、日本の企

業文化や日本文学、日本語に関心を持ち、系統的な学習を通じて理解を深めたいという欲求である。

- 高校から日本文学を国語の教科書で勉強していた。日本文学に非常に興味を持つようになったため、大学入学後、自分で日本の文学作品を多く読んでいた。翻訳ではなく、原作を読んでみたい気分になった。(S5)
- 小学校からずっと日本のアニメなどが好きで、毎日接していた。次第に字幕なしでその中の日本語を知りたいという願望が強くなった。(S6)

③興味+就職 (16名)

【興味+就職】には〈日本文化に興味、就職に有利〉と〈言語そのものに興味、就職に有利〉という二つのサブカテゴリーがある。この種の動機を持っている学習者は日本文化または言語そのものにある程度興味を持っている。また、英語以外のもう一つの外国語を習得することにより、将来の就職に有利であると信じている。

- 大学入学後、日本のバラエティー番組をよく見ている。出演する女性が話す日本語が美しい。また、英語以外の外国語の習得は就職に役立つと思う。(S7)
- 言語に対して全般的に興味を持っている。最初は英語を選ぼうと思っていたが、英語はみんなよくできるので、よく勉強しても他人と比べて有利にならない。日本語は違う。一般的に勉強されていないから。就職はどうかよく分からないが、役に立つと信じている。(S8)

④充実+興味 (3名)

【充実+興味】は〈休日を充実させる、アニメへの興味〉から生じる動機である。つまり、限られた大学生活をより充実させて有意義に過ごすことへの欲求である。このカテゴリーの該当者は日本のアニメなどに興味を持っており、双学位を通して大学生活を充実させるために日本語の双学位履修を決意した。

- 休日を利用して勉強をしたい。そうでなければ、ルームメイトとゲームをやることになってしまう。それに日本のアニメに夢中で、興味を持っている。(S9)
- 週末の時間を埋めたかったので、双学位を利用することにした。それに、日本のアニメ・コミック・ゲーム文化を知りたかったからだ。J-POPで流れてくる曲の歌詞の意味を知りたかったのも大きな理由だ。(S10)

⑤興味+習得容易 (1名)

【興味+習得容易】は〈日本語が美しい、習得しやすそう〉ということから生じる動機である。この種の学習動機を持っている学習者は日本語や日本文化にある程度興味を持っているが、これだけで日本語双学位履修を決心することができない。言うまでもなく、日本語では中国人にとって馴染みのある漢字が使用されているため、習得は比較的容易で、授業外で双学位学習のために使う時間が少なく済むと考えたようである。

- 大学に入学し、日本の映画・ドラマを見ているうちに、日本語が美しいと思うようになった。それに、漢字もあるので、比較的勉強しやすいように思う。(S11)

⑥主専攻の補助（4名）

【主専攻の補助】とは日本語が〈主専攻の学習と繋がり、助けになる〉ことに起因する動機である。この種の学習動機を持っている学習者にとって日本語は主専攻と密接に関連しているため、日本語ができると専攻に有利となる。

- 専攻はソフトウェアで、この面において現在日本から中国へのアウトソーシングが多いので、日本語を勉強することは将来役に立つかもしれない。(S12)
- 専門は社会学なので、中日の歴史の研究のための下準備として日本語を勉強したい。小さい頃から歴史に興味を持ち、同じアジアの国なのに、どうして19世紀半ばから違う道を歩んだのかなどについて興味がある。(S13)

⑦競争+興味、就職（1名）

【競争+興味、就職】は〈競争意識から始まり、次第に興味、就職に変化〉していった動機である。本研究では、このような転換を見せた学習者は他人ができることは自分もできるという競争意識から学習動機が生まれ、次第に日本に旅行に行きたい、就職に有利と考えるようになった。

- 高校の時、クラスメートが休日を利用して独学で日本語を勉強していることを知った。英語だけではなく、日本語も話せることを羨ましく思い、自分も日本語の教材を買った。大学に入って時間的に余裕が出てきたので独学で日本語の勉強をはじめた。他の人に外国語が2つ話せるなら、きっと私にもできる。競争意識から始まり、そしてだんだんと興味を持つようになった。日本にも旅行に行きたいし、就職にも役立つはずである。(S14)

⑧大学院受験（2名）

【大学院受験】は〈英語以外の外国語で大学院試験を受けたい〉ことから生じる動機である。中国における大学院入試の外国語の科目中、最も選ばれているのは英語であるが、その難しさもよく知られている。このカテゴリーに属する学習者は、自分の英語のレベルでは大学院入試合格は難しいと考え、日本語での挑戦に切り替えることにした。

- 英語以外の外国語で大学院入試を受けたい。自分の英語のレベルでは合格は難しい。日本語で挑戦したい。ルームメートの一人が日本語を勉強しているので、勉強する気になった。(S15)
- 大学院入試の英語はとても難しいと聞いている。逆に日本語は簡単だと聞いているので、日本語で受験したくなった。(S16)

⑨周囲からの影響（7名）

【周囲からの影響】は〈無意識に周囲に影響される〉と〈友人や家族の勧誘〉というサブカテゴリーからなる。具体的には、無意識に周りの人々が持つ日本や日本語に関わる考え方・意見などから影響を受けたり、友人や家族に直接的に勧められることで生じる動機である。

- 一番仲の良い友達が日本語専攻。自分の専攻は広告で、株式会社電通の講演を聞き、その場にいた日本人通訳の素晴らしさに感動した。無意識に日本や日本語に好感を持ちはじめた。(S17)
- 外国語を元々勉強したかった。そんな時に、日本語を履修していた友人が勧めてきた。(S18)

⑩実用+習得容易（1名）

【実用+習得容易】は〈実用的なものを勉強したい、習得しやすそう〉ということから生じる動機である。ここでの実用というのは言語を習得してすぐに使用できる環境（実際に日本人と交流できる環境など）が存在することである。習得容易は日本語の中に漢字があるため、中国人にとっては習得しやすいという先入観があるということである。

- 自分の専攻は範囲が広く、何を学んでいるかよく分からないところがあるのに対し、言語には実用性がある。韓国ドラマが好きだが、韓国語は開設されていない。日本語の中には漢字があるので、比較的習得しやすいと思う。（S19）

⑪好奇心+習得容易（1名）

【好奇心+習得容易】は〈新しいものへの好奇心、習得しやすそう〉ということから生じる動機である。つまり、日本語が既習の英語とは違い、未知なものであり、学習者はそれに対して探究心を持っているということである。好奇心に加え、漢字のある日本語は中国人にとって習得しやすいのではないかという考えから日本語を履修する気持ちになった。

- 専攻が新聞学で、日本語に触れたことがなかった。だから、面白く感じている。最初は日本語とドイツ語の間で迷ったが、日本語専攻の学習者に聞いたら、ドイツ語は難しそうで、漢字がある日本語を選んだ。（S20）

⑫外国語+習得容易（4名）

【外国語+習得容易】は〈英語以外の外国語を勉強したい、習得しやすそう〉ということから生じる動機である。このカテゴリーに該当する学習者は英語以外の外国語を勉強したいと考えていた。また、中国人にとって日本語は習得しやすいと考えられているため、日本語の履修を決めていた。

- 特に興味があるわけではないが、多くの外国語をマスターすることは悪くないことだと思う。日本語には漢字があるので、習得しやすそうだし。（S21）
- 外国語を勉強することで、その国のことを知り、視野を広げることができる。フランス語と日本語の間で迷っていたが、フランス語は難しそうだ。（S22）

⑬留学（6名）

【留学】には、〈日本製造業への憧れ〉、〈専攻のレベルが高い国に留学したい〉、〈専攻に不満を感じ、英語の成績がよくない〉という3つのサブカテゴリーがある。このカテゴリーに属する学習者は、様々な要因から日本の大学院への進学を決めていた。一つ目の要因は〈日本製造業への憧れ〉である。学習者は身の周りの日本製品の質の良さから日本の製造業に憧れ、その雰囲気を体験してみたくなった。また、大学院へ進学したいという気持ちもあったため、日本への留学を決めた。二つ目の要因は〈専攻のレベルが高い国に留学したい〉ことである。材料工学や製造業関係の専攻については日本の方が進んでいる。結果、日本への留学を選択肢として考えるようになり、日本語を学習してみることにした。三つ目の要因は〈専攻に不満を感じ、英語の成績がよくない〉であり、該当する学習者は現在の専攻に不満を感じ、外国へ留学をしたいが、英語があまりできないため、消極的理由から日本に決定した。下記のS23は日本に留学するというはっきりとした目標を持っている

たのに対し、S24は日本留学を卒業後の進路の選択肢の一つとして考えていた。双学位開始時期は大学2年生の後半という比較的早い時期であるため、将来の進路について未定の者が多く、選択肢の中の一つに留まっていたのであろう。

自分の専攻が好きではないので、大学院で新しい専攻に変えようと思っている。第一希望は日本に留学し、別の専攻に変えることだ。(S23)

- 必ずしも日本に行くとは限らないが、留学先の選択肢の一つに日本がある。専攻が環境工学で、日本とドイツがこの分野では強い。(S24)

⑭留学+興味 (3名)

【留学+興味】は〈専攻のレベルが高い国に留学、アニメなどに興味〉があることから生じる動機である。日本の製造業関係の専攻は最先端にあり、当該専攻者が外国の大学院への留学を検討する際には日本が選択肢の一つとしてよく検討される。また、アニメなどの影響もあり、日本への留学を決定した。

- 専攻が機械製造で、ドイツと日本は進んでいる。両親は留学させたがっている。ドイツ語のことはよく分からないが、日本のアニメに興味を持っているので、日本に留学したい。(S25)
- アニメが好きで、美少女養成ゲームもよくやっているオタクだから。専攻は材料科学で、日本とドイツのレベルが高いので、日本に留学したい。(S26)

5 考察

5.1 複合的学習動機と単一的学習動機

以下では、日本語双学位学習者の学習開始時の学習動機の内容の構成を見てみよう。まずはじめに、本研究では複数の学習動機から構成される動機を「複合的学習動機」と呼び、単一の学習動機のみによる学習動機を「単一的学習動機」と呼ぶことにする。表2から分かるように、学習者の学習動機には単一の Kategorie だけからなる単一的学習動機と、いくつかの Kategorie から構成される複合的学習動機がある。複合的学習動機を持っている学習者は30名で、その内訳は【興味+就職】(16名)、【充実+興味】(3名)、【興味+習得容易】(1名)、【競争+興味、就職】(1名)、【実用+習得容易】(1名)、【好奇心+習得容易】(1名)、【外国語+習得容易】(4名)、【留学+興味】(3名)である。このことから、双学位を履修する際、単一的動機を持っている学習者の他に、複合的学習動機を有する学習者も1/3を超える割合(69名中30名)で存在することが明らかになった。根本(2011)も日本のポップカルチャーは他の要因と関連し、複合的に学習動機を構成すると主張している。ただし、本研究では、日本のポップカルチャーだけではなく、それ以外の要因も相互に関連して学習動機を構成していることが明らかになった。

一方、単一的学習動機の中では、【興味】(〈日本語や文化への興味(14名)〉)が最も多かった。この Kategorie に属する学習者は、複合的学習動機中の【興味+就職(16名)】、【充実+興味(3名)】、【興味+習得容易(1名)】、【競争意識+興味、就職(1名)】を含めると半数以上(69名中35名)を占めている。国際交流基金(2013)は、日本語教育が行われている中国の1800もの機関で、合計

1,046,490名の日本語学習者を対象に学習動機を調査した。その結果、「マンガ・アニメ・J-P O Pなどが好きだから」(63.6%)と「日本語そのものへの興味」(57.2%)という動機がそれぞれ1位と3位であることを報告していた。本研究の結果は、この調査結果と一致している。

ここで、注意を促したいのであるが、複合的学習動機と単一的学習動機というのは単に学習動機の内容上から分類したものであり、学習動機の強度（ここでは日本語を学習する意欲を高めたり、維持する力の強弱を指す）とは関係がない。つまり、単一的学習動機を持っている学習者の学習動機の強度が、複合的学習動機を持っている学習者のそれに劣っているとは限らない。

この他、学習者の選択に影響を及ぼす要因としては、通学距離（住居から授業場所への距離、日本語学校と比べて近いこと）や希望する課程の未開設（第一希望の課程が未開設で、第二希望の日本語を選択）、世間体（語学学校と比べて双学位証書の方が世間から評価が高い）などの現実的な理由が挙げられる。

5.2 長期的学習動機と短期的学習動機

次に、学習者の日本語双学位の学習動機の形成時期について考察していく。「高校から日本文学を国語の教科書で勉強していた。日本文学に非常に興味を持つようになったため（S5）」、「小学校からずっと日本のアニメなどが好きで、毎日接していた（S6）」のように、大学入学前、または小さい時から長期間にわたり日本語と密接な繋がりを持っている学習者もいれば、「専門は社会学なので、中日の歴史の研究のための下準備として日本語を勉強したい（S13）」や「英語以外の外国語で大学院入試を受けたい（S16）」のように、大学入学後、または双学位履修直前に双学位履修を決めた学習者もいた。このように、学習動機の形成時期は学習者間において異なっている。前者は早い時期から様々な媒介を通じて日本文化・日本語と接触し、程度の違いは見られるものの、日本語や日本文化が日常生活に浸透していた。本研究ではこのように大学入学前から長期的に日本や日本語に接することで生まれてくる日本語の学習動機を「長期的学習動機」と呼ぶ。これらの学習者の学習動機は早くから芽生えており、長期間にわたり日本語双学位履修の原動力となっていた。

一方、大学入学を境に、一時的（双学位履修直前に）にまたは短期間（大学入学後から）に形成された動機のことを本研究では「短期的学習動機」と呼ぶ。この学習動機を有している学習者が将来の進路について考えはじめるのは早くても大学入学後である。この種の動機の形成要因として、将来的な有用性への漠然とした期待（専攻との関連上就職や留学に有利なことや日本語の習得は就職に有利とされていたこと）や習得の容易さ（日本語には中国語と同様に漢字が使用されていること）が挙げられる。

長期的学習動機、短期的学習動機の保持者には、それぞれいくつかのパターンが見られた（表3）。

表3 長期的学習動機と短期的学習動機におけるパターン

長期的学習動機	短期的学習動機
<ul style="list-style-type: none"> 日本語や日本文化（アニメなどのポップカルチャー）に関心を持っている学習者（【興味】関連のカテゴリー） 日本語ができる同級生への競争意識から日本語学習を開始し、次第に日本語や日本文化に興味を抱くようになった学習者（【競争+興味、就職】） 無意識に周りの日本に関する考え・意見などに影響された学習者（【周囲からの影響】〈無意識に周囲に影響される〉） 日本のものづくりを代表する製造業に憧れを持っている学習者（【留学】〈日本製造業への憧れ〉） 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの外国語を習得することは将来の就職につながるはずというようにぼんやりと考えている学習者（【就職】〈将来の就職に有利〉、【興味+就職】） 将来の進路を考える際、日本留学が目標で、または選択肢の一つとしている学習者（【留学】、【留学+興味】）、また、大学院入学試験の外国語科目を日本語で受験したい学習者（【大学院受験】） 主専攻を学習する際、日本語の習得が主専攻の助けになると考えている学習者（【主専攻の補助】） 大学生生活の充実（【充実+興味】）や習得の容易さ（【興味+習得容易】、【実用+習得容易】、【好奇心+習得容易】、【外国語+習得容易】）、周囲の人に日本語双学位を履修するのを勧められた学習者（【周囲からの影響】〈友人や家族の勧誘〉）

複合的学習動機・単一的学習動機と長期的学習動機・短期的学習動機という分類は学習動機が持つ多面性に由来するもので、本研究においては、前者と後者との間に関係は見られなかった。具体的には、短期的（長期的）に形成された動機であるから動機が単一的（複合的）であったというわけではなく、時間的な線型的関係性は見いだせなかったということである。例を挙げると、【興味】だけしか動機がない単一的学習動機を持っている学習者には小さい時から日本文化や日本語に興味を持ちはじめた長期的学習動機の学習者（S6など）もいれば、大学入学後、興味を持ちはじめた短期的学習動機の学習者（S11など）もいる。複合的学習動機の場合も同様である。例として挙げると、【興味+就職】という動機では短期と短期、短期と長期の組み合わせが見られた。就職は大学入学後、将来を考えて生じる短期的学習動機であるのに対し、興味というのは前述の単一的学習動機で述べたとおり、長期的にまたは短期的に形成されるものである。このように複合的動機は必ずしも長期的に形成されたものではなかった。

5.3 日本語（日本）の知識と日本への印象

以上の2節では、日本語双学位履修者の学習開始時の学習動機を、単一的か複合的か、長期的か短期的かという基準で分類した。以下では、異なる学習動機を持っている学習者間における日本語と日本の知識の相違について検討する。

全体的に見て、双学位開始前に既に様々な形で日本語を学習したものの、より系統的な学習とより良い指導を受けることを欲するようになった学習者が多い。前述したように、複合的学習動機の学習者の学習動機は必ずしも強いわけではなく、単一的学習動機の学習者の学習動機も必ずしも弱いとは限らないことから、複合的学習動機であろうが単一的学習動機であろうが、その学習量につまり日本語（日本）の知識には関係がないことになる。次に、長期的学習動機と短期的学習動機を有している学習者間で違いがあるかを見ていく。長期的学習動機を持っている学習者は早くから日本語に興味を持っていたが、日本語学習を実行に移していったとは限らない。独学で、または日本語

学校に通い系統的に学習していたり、アニメなどの鑑賞を通じて意識的に日常会話を覚えたり、日本語に接触していても何の行動にも移さなかったりなど、様々な形態がある。同様に、短期的学習動機を有する学習者の日本語の知識も少ないとは限らない。例を挙げると、【外国語+習得容易】という動機を持っている学習者4名は、日本語に長期的に接触していなかったが、うち3名は大学の選択科目として日本語を履修したり、日本語学校に通うなどしていた。

日本に関する印象については異なる動機を持つ学習者間で相違は見られなかった。学習者が日本に対して持っていた印象としては礼儀正しさ、勤勉さ、良い環境などのプラス面や、自殺率が高いなどのマイナス面があったが、プラス面が主流であった。学習者は自分の意思で双学位の履修を決定していたことからマイナス面での印象が少ないようである。

6 おわりに

従来の研究とは異なり、ある地域のある集団における日本語学習者の学習過程における一時的な学習動機の傾向だけではなく、本研究では個々の学習者に目を向け、系統的に日本語を学習しはじめる前の学習動機の構成内容、形成時期を浮き彫りにした。その結果、学習者の中には日本語双学位を決める際に、複合的学習動機を持っている者が少なくないことが判明した。また、学習者の日本語学習動機には長期間にわたって影響を与える長期的学習動機と、大学入学後からの比較的短い期間で形成される短期的学習動機があることが明らかになった。これは日本語学習者の学習動機の構成内容が複雑であることや長い時間をかけて醸成されうることを示唆している。根本（2011）と同様に、学習動機を系統的な日本語学習開始前から捉えた方がより全貌が見えてくることが分かった。今後の課題として、本稿で明らかにした「長期的学習動機・短期的学習動機」、「複合的学習動機・単一的学習動機」が日本語双学位学習開始後どのように変化していくかや学習効果との関係などを考察していきたい。

注

- 1 2011年より、さらに3つの大学がこのプログラムに加入したが、通称は依然として「七校聯合」である。
- 2 原則として、双学位は一部の歴史のある、優れた教師陣により高水準の教育・研究が行われている大学に存在するプログラムである。

参考文献

- 案野香子・谷部弘子（2010）。「中国の大学における日本語教育の側面：湖南省・雲南省における非専攻日本語学習者および教師へのインタビュー調査から」、『静岡大学国際交流センター紀要4』, 39-56.
- 王婉莹（2005）。「大学非日语专业学生日语学习动机类型与动机强度的定量研究」、『日语学习与研究122』, 38-42.
- 大西由美（2013）。「日本語学習者の動機づけに関する縦断的研究：日本語接触機会が少ない環境の学習者を対象に」北海道大学国際広報メディア専攻博士論文.
- 许晓东（2008）。「武汉地区高校联合办学的探索与实践」、『中国大学教学5』, 72-74.
- 国際交流基金（2013）。「海外の日本語教育の現状—2012年度日本語教育機関調査より」, くろしお出版.

- 成同社 (2006). 「中国大陸地区における大学非専攻日本語教育の現状」, 『松本大学研究紀要4』, 159-165.
- Dörnyei, Z. (2001). Teaching and Researching Motivation. Harlow:Longman.
- 成田高宏 (1998). 「日本語学習動機と成績との関係—タイの大学生の場合—」, 『世界の日本語教育8』, 1-11.
- 縫部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩 (1995). 「大学生の日本語学習動機に関する国際調査—ニュージーランドの場合—」, 『日本語教育86』, 162-172.
- 根本愛子 (2011). 「カタールにおける日本語学習動機に関する一考察：LTI日本語講座修了者へのインタビュー調査から」, 『一橋大学国際教育センター紀要2』, 85-96.
- 彭晶・王婉莹 (2003). 「专业学生与非专业学生日语学习动机及学习效果研究」, 『清华大学教育研究24』 (1), 117-121.
- 守谷智美 (2002). 「第二言語教育における学習動機の研究動向：第二言語としての日本語の学習動機研究を焦点として」, 『言語文化と日本語教育』増刊特集号, 315-329.

稿末資料

記述式質問紙調査と半構造化面接質問項目（日本語訳は筆者による）

- 1 为什么要选择日语二学位？请具体说明。（どうして日本語双学位を選んだのか。具体的に説明しなさい。）
- 2 你对日语（日本）的了解多少。有的话，是通过什么途径。（あなたは日本語（日本）に関する知識を持っているか。どのようにして得たか。）
- 3 你的家人、朋友、老师对你选择日语双学位有什么想法？（积极地消极的都可以写）（日本語双学位を選んだことについて、あなたの周りの人たち（両親、友達、先生）はどう思っているか（消極的な面と積極的な面、どちらも可）。）